

平成 28 年 3 月 9 日

つくし保育園

平成 27 年度 第 2 回 苦情解決第三者委員会との話し合い報告

日時 平成 28 年 3 月 8 日 (火) PM18:30~20:00

場所 つくし保育園事務所

出席者：第三者委員：石丸寛秋氏・渡辺直子氏

保育園担当者：沢登博美・小松史香

(1) 平成 27 年度下半期は、1 件の苦情が寄せられた。

12 月 9 日 (水)

- ・ 子どもが担任保育士に押され怖いから保育園に行きたくないと言っている。
担任保育士はどのような関わり方をしているのか

上記の苦情と職員でどのような対応をしたか第三者委員に伝えた。

対応をした職員は、対象児と苦情に出された職員の間には必要な事に対しては対象児を指導することはあっても日々の中では触れ合ったり気持ち良く遊び関わっている姿を母親に伝えた。すると母親の子どもに対してどのように接しているのか、口頭でこのような事をわが子から言われ、本当はこの担任の事も信頼を寄せている。もしかしたらわが子がうそつきな子になってしまうのではないかと言う子育ての不安から相談したことが分かった事を伝えた。

子どもの発達を保障するとともに保護者支援の大切さを確認し合った。

(2) 保護者アンケートについて 小松が集計表を基に説明した。

- ・ 今年度の保護者アンケートでは、回収率が 84%

・ 保育内容としては励みになる意見を多くいただいた。子ども一人ひとりの発達を大切に、保育活動も「子どもにとって」という点で保育理念に沿った保育に共感してくださる保護者が多かった。

また、連絡帳の在り方については年度始まりにお伝えしているが、保護者が伝える以上に保育者への要望が多いことを感じた。ここはこれからも大きな課題と感じた。

・ 食育に関しては、保育園で栄養のバランスを取ってもらっている。忙しい中でも保育園の食事があるから安心している。四季や旬の食材を大切にし、味噌作り、イワシ、サンマの炭火焼き、ぶりさばき、様々な活動に感謝するというご意見が多かった。

その中でも、お便りの文書が分かりづらい、クラス懇談会の在り方について、送迎用駐車場について、昨年の意見で改善されていなかった事について等の意見については、職員で何度も話し合い、改善点やこちらの意見などを保護者に伝わるように提示することを伝えた。

(3) 下半期の自己評価、まとめについて

今年度も各自がたてた目標についてそれぞれが反省したり、振り返ったりする形で自己評価を行った。自己評価や職員の面談の中で、子どもの発達を保障していく保育の大切さ、受け入れるのではなく、受け止める保育の大切さ、また、保護者支援が大変になってきている思いが多かった。

(4) 第三者委員の感想

保護者支援が大きな課題となっている事を感じた。「つくし保育園の保育」を保護者にも多く意識的に伝えていく大切さや、何気ない会話から信頼関係を築いていく事を大切にして行ってほしいという意見が出された。

(5) その他、平成 28 年度も引き続き第三者委員をお願いしたいと話した。お二人とも快く引き受けて下さった。